

＜ 特別寄稿 ＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第73回

鹿蹄草（ろくていそう）



左上は学名が間違っていますがニワゼキショウの仲間、右上はハンニチバナの仲間、右下はナデシコ科のムギセンノウの仲間、左下はエゾイチヤクソウ（イチヤクソウ科）です。

イチヤクソウととてもよく似ていますが北アメリカからユーラシア大陸北部に広く分布し北海道や南北アルプス等にも自生します。

全草を鹿蹄草と呼びます。鹿蹄草にはトリテルペン類、ステロール類、クエルセチン、アルブチン等を含んでいます。鎮静、鎮痛、リュウマチ、関節炎等の疼痛に用います。

本画は1829年マウンドにより描かれました。